

山口定先生追悼記念号に寄せて

立命館大学政策科学部長 重 森 臣 広

山口定先生がご往年されたのは、2013年11月17日のことでした。この年は、先生が初代学部長に就任され、1994年4月に開学した立命館大学政策科学部がちょうど20年目を迎えた年にあたり、開学20周年式典の直後に届いた先生の訃報は、誠に驚きの極みでありました。この式典が、まだ若い学部である政策科学部の飛躍と発展を祈念する決意で結ばれただけに、無念の思いはいつそうつります。先生が誕生間もない新しい学部のヴィジョンを打ち出し、その運営に尽力されたご功績の大きさを改めて知らされる思いです。

本誌12巻特別号（2004年）「政策科学部10周年記念号」への特別寄稿「断章—学部創設時の思い出」の中で、先生は政策科学という学問の基本を、「実務社会からの要請に対応するばかりではない『新しい学問づくり』と日本社会の混迷から脱却するための『市民社会のレベルアップ』という姿勢」に貫かれたものだと表現されています。ファシズム研究へといたるヨーロッパ政治史研究、「ネオ・コーポラティズム」論に代表される政治過程研究を経て、日本における市民社会の成熟に資する「新しい学問」の構築として政策研究を展開された先生の足跡に、過去、現在、そして未来の間を架橋する偉大な知的営為をみてとることができます。

本号では、立命館大学法学部・大阪市立大学法学部・立命館大学政策科学部で研究・教育活動をされた山口先生の追悼号として、ご学縁をおもちの方々にご寄稿いただきました。これらの大学・学部のご同僚の方々、学部・大学院を通じて先生の薫陶を受けた若い研究者の方々です。多彩なテーマによる寄稿論文より編まれたこの論文集は、先生の研究・教育活動の広さと深さを示すものと言えましょう。

最後に、改めて山口先生の学恩に感謝の意を申し上げるとともに、哀悼の意を表して、この追悼号の巻頭言といたします。

2015年3月

